

地域密着型サービス評価の自己評価票.

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	出来上がった理念に基づいて、職員全員が理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	法人の広報誌やパンフレットなどにゆたかな郷の理念を明記し、家族会や地域への説明会等の機会がある毎に、家族や地域の人々に理念を理解してもらえよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近隣の介護予防的な高齢者や近所の子供たちが気軽に立ち寄れるサロンのような場の提供をしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地区の自治会に加入し、利用者も含め地元の方々との交流を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に今は取り組んでいません。	○	将来的に、ボランティアの協力のもと、毎日、毎食、提供できるような配食サービスを実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価は仕事の見直し、改善できる良い機会と考えています。自己評価しながら改善に取り組んでいます。	○	自己評価を行うにあたり、管理者、相談員、介護主任の3人で評価をしてきたが、全職員で自己評価を行い、改善に向けて全職員が一丸となり取り組めるようにしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在開催していません。	○	外部評価を受けた結果を踏まえて運営推進委員会を開催していきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが開催する高齢者ネットワーク会議に委員として管理者が参加し、市の担当者も参加しているのので、利用状況やケースについて話し合う機会があり相談をしています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	茨城県社会福祉士会が主催する地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会に参加しています。	○	積極的に地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会に職員を参加させていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会があれば職員を研修会に参加させています。小規模利用者の中には虐待にまで至っていませんが、介護者の理解力に問題があり、寝たきりの利用者に褥創を作ってしまうため、保護と褥創治療を考えて利用者をお預かりしているケースがあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスを利用するに当たっての十分な説明と同時に、その時点で利用者・ご家族の抱えている不安等を伺い、事業所が提供することのできるサービスの範囲をご家族に伝え、納得して頂いた上で契約を行なっています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回生活懇談会を開催し利用者に意見、不満が言える機会を設け運営に反映させています。例:洗面台の高さの改善を利用者の意見から聞き改修を行なっています。法人として苦情解決委員会を2ヶ月に1回開催し苦情や要望に対し改善の話し合いを行い運営に反映させています。	○ 外部者へ苦情解決に問う内容を表せる機会(広報での公表・運営推進会議等)を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の際や電話でここ最近の利用者の暮らしぶりや健康状態について話すようにしています。金銭管理は、利用者の小遣いを預かっている方には面会の際に収支の確認とサインをもらっています。職員の異動等については面会の際に報告をしています。	○ 利用者それぞれの暮らしぶりがわかる「ゆたかな郷だより」を手作りで作成し、利用者の家族等へ年6回の発行をできるようにしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の中で意見、不満、苦情を述べる機会を作っています。(今年度:1回)直接は言い難いので意見箱を作成しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の中で意見や提案を聞く機会を設けています。直接意見や提案を聞くことが多いです。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の勤務希望も考慮しながら勤務表を作成し、急な変更でも必要な職員数を確保できるよう、職員同士で調整し勤務を組んでいます。又、利用者様それぞれの心身状況把握している担当職員が通院介助の必要な利用者様に同行できるように勤務を組んでいます。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人が運営する事業所間での人事異動は行っていません。職員の離職者はこれまでに2名おりましたが退職理由等を利用者に説明し、利用者さんの前で送別会を行なっています。担当者であってもバトンタッチする担当者を決めているので、現在までに利用者が落ち込んだりするダメージは見られていません。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が自ら必要とする研修を選択し受講し、管理者は職員が必要とする研修を必要に応じて選択し受講させるようにしています。職員として必要な知識・技術を法人内の年間計画に沿って勉強会を開催し参加しています。	○
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者ネットワーク会議(1回/2ヶ月):管理者参加 県北地域密着型サービス協議会(1回/2ヶ月):管理者、相談員参加 那珂市3地区のケアマネージャーネットワーク会議のケアマネがそれぞれ集まり、勉強会を兼ね施設見学と事業説明会を行ないました。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特に改まった取り組みはしていません。	○ 職員にストレスになる事があればリフレッシュできるような対応を考え取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	功労者表彰・永年勤続者表彰制度があり実績により表彰しています。 ゆたかな郷は開設して1年未満でもあり対象者が現在おりません。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	いつもと様子がおかしかったり、表情が暗かった時などには、何気ない会話から精神状態を確認し、悩み、不安、要望などを親身になって傾聴しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時に利用者様の状況報告をする際に会話の中から要望などを聞き対応しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談の際に、小規模多機能型居宅介護サービスの機能を十分に説明し利用者・御家族の状況により福祉用具レンタルや訪問看護等他のサービスも含め説明し対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から退院して入所となるケースがほとんどで、病院を退院して在宅介護や一人での生活が困難な状態の方を受け入れてきました。入所後に家族に面会に多く来て頂くよう相談し、利用者には徐々に馴染んで頂くようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から経験豊富な知識や技術を職員が学ばせて頂くことが多く、意見を尊重し傾聴するよう心掛けています。特別な取り組みはしていませんが普段の料理メニューでも会話の中でその方の家庭で作ってた変り種の話が出たら取り入れて作り感想を聞いたりしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族との交流がなかなか取れないため、小規模の利用者と合同で「家族交流会」を企画し開催しています。交流会の中で職員と家族が料理を一緒に作ったり、利用についてご家族の意見を伺ったりしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者が普段言えないような家族に対する感謝などの良い思いなどを会話の中から聞き取り、職員が本人に代弁して家族へ思いや気持ちを伝え、認知症になっても家族とのいい関係が持てるように支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今現在は、馴染みの人へ逢いに出かけることは出来ていない状況ですが、面会に来て頂いたり、手紙を書いたりして関係が途切れないようにしています。		ドライブ外出を行い、昔行った馴染みの場所へ外出する機会を増やしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士お互い相手の部屋に遊びに行ったり、自分の部屋に呼んだりして交流している関係を大切にし、お茶の時間ならそのお部屋にお茶を運び関わり合いの時間が多く持てるように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在の状況としては、サービス利用が終了した場合、次の事業者等に引き継いでいるケースが多いが、長期入院で再びサービスを利用したいという御家族の要望には再利用できるよう配慮対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの要望があれば、その都度話を聞き、出来る限り意向に沿った暮らしを送れるよう努めている。困難な場合、ご家族からどういった生活スタイルがよいのか話を伺うなどして把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の前に、本人と面会してこれまで及び現在の暮らし についての話を聞いたり、サービス利用の経過に関しては他の事業所や病院等からの情報提供により知ること多い。足りない部分はご家族に話を伺っています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	時間帯により気分や感情の起伏が激しい利用者様のいるため、一日の様子を記録し一人ひとりの生活リズムを把握し支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	普段の会話の中やアセスメントの際に本人の要望を聞きアセスメントを行なっています。カンファレンスを実施していますが、全員分計画作成に至っておらず作成中です。	○	統一したケアをチーム全体で提供できるよう、利用者様だけでなくご家族様からの相談や要望を反映した介護計画を作成すること。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じ本人・家族と話し、その都度対応しているが計画書として見直しの段階に至っていない。	○	3ヵ月毎の定期的な見直し

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜における利用者様の言動や変化は細かく記録等に記入しすべての職員の間で情報を共有しケアを行なっています。場合により職員同士その場でケース検討を行い対応しています。	○	今後とも個別の記録は継続して行い、実施へ生かし負担のかからないサービスを提供できるように心掛けたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方に住んでいたりと、仕事の関係で面会等が困難なご家族に代わり、病院受診の通院介助を行なっています。また、通いサービス時間帯以外でもご家族の都合に合わせて早朝利用や時間延長を行い利用ニーズへの対応を行なっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアに関しては、定期的にサックス演奏の方が来て下さっている。警察(派出所)・消防署に関しては、緊急の際の協力体制にあるが、他は具体的に協力しながら支援までに至っていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリを希望する利用者については、近くの病院にリハビリを受けられるよう外出支援しています。また、利用者様の身体状況や経済面、生活環境を考慮し、法人内にある利用者様に適した事業所でサービスを利用できるよう、事業所担当者と調整もしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが開催する高齢者ネットワーク会議に委員として管理者が参加しているので必要に応じて協働できる体制にあります。現在までにケースはありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に相談をし、納得や了解が得られた場合、ご本人の病状や健康状態を考慮してかかりつけ医への受診支援を実施し、関係をきづいている。その他、希望に沿いながらご本人の心身状況にあった専門医を紹介するなどしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の診断が必要な利用者は少ないですが、職員は日ごろの様子を観察し、著しい変化があった際にはご家族に専門医への受診を相談し、受診の際に職員が付き添うなど適切な診断が受けられるよう支援しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	体調の変化等が利用者にもみられた場合など、常日頃から関わっている施設の看護職員に相談し、対応の指示を仰いだりして利用者様の健康管理を十分に協働しながら支援しています。また、同法人の特養の経験豊かな看護師に、症状に適切な受診病院や入院先、対応方法など相談をしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて、再び施設に戻り生活できるような環境を整えているが、情報交換となると頻りに面会されているご家族から利用者様の状況を伺うことが多い。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設側から積極的に聴くことはしていませんが、利用者の体調変化や入院退院に際した時に家族との話し合いを持っている。施設の方針として現在、施設でのターミナルケアの取り組みは行っていない。	○	利用者様やご家族様の中には、今後身体が衰えた時に不安を抱えてている方もいる為、常日頃から利用者様と関わるスタッフも共に考えていけるよう話し合いを行う機会を設けていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所が開設して1年目で、利用者様の中で重度の方や終末期を向かえるような方がいないということもあり、その点に関してはまだ話し合う段階に至っていません。	○	今現在、重度化・終末期について利用者様やご家族様に意識はないとしても、重度化や終末期に向けて事業所として職員一人一人が頭に入れながら支援できるよう重度化・終末期への対応について取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	身体状況や経済的な理由から同法人運営の特別養護老人ホームへ住み替えをする方がおりますが、ダメージを防ぐため近くになり3回ほど見学を実施し皆さんの中に入りレクをしたり、お茶を飲み交流を行なっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性を大切にし、尊重したうえで言葉かけ、対応を行なっています。	○ 利用者様と良好な信頼関係が保てるよう、利用者様の理解に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物などの行事外出や、日々の入浴などは個人の自己決定のもと支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らし方は、食事、お茶の時間は生活の流れとして決めています。それ以外のレクや行事は不活発にならないようにしながら本人のペースで参加・見学して頂き本人のペースを大切にしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物での衣類選びなどは、利用者様の自己決定を優先し必要ならば助言している。 理容は、近所の美容院に出張してもらいカット・カラー・パーマが出来るようにしている。又、馴染みのあった美容院に迎えに来てもらうことも行っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしている方が多く、時に利用者様に味付けや皮むきなどを手伝って頂いています。 特定の方に限られてきますが、食器拭きやテーブル吹きなどの片付けを手伝って頂いています。	○ 利用者の出来ることを支援し、少しでも多くの利用者が、ここで生活する家族の仲間として調理に参加できるように取り組んでいきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	施設側の提供するおやつや飲み物は利用者様の希望を取り入れて購入していますが、個人の嗜好の物は買い物外出の際に購入して頂き楽しめるようにしています。 お酒を飲まれる方はご自分のお部屋で楽しんで頂いています。喫煙される方は現在までにおりません。	○ 喫煙される方が利用された場合には、禁煙することなく安全に周りの方に迷惑とならないような環境で職員見守りにて喫煙して頂くように取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	認知症が強く尿意や便意があるが訴えることができない方の排泄パターンやそわそわサインを見つけ誘導しています。時々タイミングが合わず失敗してしまうことがあります。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日で決まっている入浴日に声かけをし、入浴を希望される方に入浴して頂いています。入浴時間は長湯にならない範囲で本人のペースに合わせて入浴を楽しんで頂いています。入浴剤を入れて乾燥肌対策や香りもありリラックスできるようにしています。	○	入浴をより楽しんでいただけるように音楽を流したり、入浴剤の種類を増やしたり工夫をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休息は個人差があり本人の体力や年齢に合わせて昼食後に休息して頂いています。就寝は、だいたいPM8時からPM9時の間には皆さん居室に入室し就寝して頂くよう習慣づけしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何らかの障害があっても一人ひとりに合った手伝いや得意分野でのレクを取り入れ、生活に張り合いが出るように支援しています。	○	運動機能を高められるようなゲームや利用者みんながともに楽しめるレクを取り入れていきたい。趣味でやっていた物や時間がある時に個人でも楽しめるようなものも取り組んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出の際に、可能な方にはお預かりしているお金をお渡しし、レジでの支払いができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や季節に合わせて散歩に出かけている。冬は敷地隣の池に白鳥が飛来するので見に出かけたり、春は桜の花が敷地周囲に咲き誇り環境が良いところなので時間を見つけて出かけています。近所のスーパーに月1回買い物外出に出かけています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	生活懇談会で行きたい場所を聞き、日課や行事遠足に取り入れて出かけています。契約の際に、自由に外出・外泊できることを説明しているの、面会時に近所へ外出に出かけられたり、自宅へ戻られたり、家族とお墓参りなどに出かけられています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は、本人の要望に応じて電話をして話が出るように支援しています。親類関係への電話の場合にはご家族の承諾を得て対応しています。文通をされている方に対しては、ポストの塔館など受け渡しの支援を		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問や面会に来られた際に、ゆっくりと話ができる談話スペース(相談室)があり、他の利用者やグループホームの入居者を気遣いすることなく過ごせるようになっている。お弁当を持参し、談話スペースで一緒に食事されている方もいます。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを念頭に介護に取り組んでいます。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解していないところがあります。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解するための内部研修・外部研修を実施していきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害はすべての職員が理解しているが、認知症の方の徘徊時の行方不明防止や安全確保のため玄関に鍵を掛けています。また、認知症の方の徘徊時の他居室への無断侵入で度々トラブルがあり、本人要望にて一部の居室に簡易式の鍵を付け、本人が鍵の開け閉めを行なっています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室する際のあいさつなど基本的なマナーを守り、利用者との信頼保ちながら所在確認・安全確認をしています。 日中:3食、10時3時のお茶、レク、入浴等での所在安全確認 夜間:巡視時間に所在安全確認を行なっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方の認知能力に合わせて個人の持ち物や飾り物や置物はその方の家庭に近い雰囲気大切にしています。ハサミ・ナイフ等は事故防止のためお預かりしています。調理で使用する包丁、消毒で使用する薬品は、施錠できる部屋の中で保管し事故防止に努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	同法人系列の特養ゆたか園と合同で、転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等の勉強会を年間計画に沿って開催し参加しています。 転倒、窒息、誤薬、行方不明の兆候のある方々の身体状況・精神状況を把握し、事故防止に心掛けています。	○	徘徊をされる方の行動を抑止することなく、職員と一緒に見守り行動し寄り添えるような職員体制、環境作りをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部の勉強会(年間計画にて緊急時の対応・感染対策等実施)や外部研修において、随時学んでいるが、毎回全職員が参加できているわけではない。	○	緊急な状況はいつ起こるか分からないので、AEDの使い方、意識低下、誤嚥等の内部研修・外部研修に全職員がもれなく参加するよう計画したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在まで(09, 1月末)避難訓練を3回実施。 第1回 2008, 6月(火災発生避難訓練) 共に、利用者様参加 第2回 2008, 8月(夜間緊急招集訓練) 第3回 2008, 12月(夜間火災想定避難訓練) 地域の人々の協力を得ての訓練は実施できていない。	○	地域住民、近隣企業、地元消防団等の方々に有事の際にかけつけて協力を得られるような訓練を実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様の尊厳を前提にし、ご家族様と理解力のある利用者様に、リスク(転倒・転落・誤嚥等々)を説明し伝えることで、共にストレスを抑え安心して利用して頂けるよう契約時や随時話し合うようにしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、全員のバイタルをチェックし体調の変化を確認したり、声かけの際に一人ひとりの顔色や声のトーンなど様子を観察したり、些細な変化でも気付けるようにし、異変があればその場(スタッフルーム)で看護職員と職員間で話し合い対応をしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した際に、薬局からの処方薬説明書を一冊のファイルにし、一人ひとりの服薬内容を確認チェックするようにしています。薬の変更追加があれば同様に確認チェックできるようにしています。症状の変化については、ミーティングの際に経過報告し、次の病院受診にDrに報告しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の食事メニューや、乳製品・乳酸菌飲料などを食事のデザートやおやつに多く取れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、誘導、介助を実施しています。必要に応じて訪問の歯科医師による治療と指導を受けています。	○	口腔ケアの意識と習慣性を強化し、利用者の清潔感を総合的に保持する口腔ケアに取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表を作成し、一日の食事摂取量を記入している。 水分摂取は、必要な方だけチェック記録しています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの場合、流行期間中は人が多く出入りするスーパーなどへの外出を控えています。 面会者の方へは「うがい、手洗い、マスクの着用」をお願いし玄関に一式をセッティングし実施しています。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁は夜勤者が洗浄後に滅菌機にて殺菌消毒し、キッチンシンクも夜勤者が清掃しています。 食材は、当日分を前々日に毎日配達されるので、食材は残さないよう使い切っています。冷凍物は配達後すぐに冷凍庫へ、野菜は野菜室へしまっています。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、季節の花を植木鉢やコンテナに植えて華やかにし、出入りしやすい雰囲気には心掛けています。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誰もが居心地良く過ごせるよう、行事ごとのレク作品を飾ったり、教養の空間の清潔感を保つよう心掛けています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や談話室(相談室)は南側に面していて日当たりがよいので、時々窓際に座り日向ぼっこをしながら居眠りをしている様子も見られています。一人になれる場所は全室個室なので居室で自由に一人の時間を過ごされています。また、気の合う仲間同士で居室を行き来されています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊りの方へ、必要であればご自宅から馴染みの物を持ち込んで飾ったりしてもいいように説明しています。自宅で使用していた家具や自室でくつろげるようにテレビを持ち込まれ、ご本人の居心地のいい空間にしている方もいます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	おむつ交換後の換気は、そのつど窓を開けたり居室に設置の換気扇を回したりして随時対応しています。外気温との差がないようにエアコンの温度設定を21度～22度程度にして、日中天氣の良い温かい時間帯はエアコンを止める等こまめに入り切りを行なっています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドは身体状況に合わせ、ギャッジアップのないタイプ、電動1モーターギャッジアップ、電動3モーターギャッジアップを用意し自立度に合ったベッドを使用しています。木造の建物で家庭に近い作りになっていますが、車いす対応でバリアフリーになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの理解度に差があり、時に利用者同士の衝突や混乱があり「一人ひとりのわかる力を生かして、…」と言うようには出来ていません。「見守り、寄り添う」ことしか出来ませんが、今の生活機能を低下させないように努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周は建物周りを歩行器や車いすでも歩けるように舗装している以外はまだ未開拓である。	○	庭やベランダにベンチやパラソルなどを設置するなどして、利用者がくつろいだり楽しんだりできるよう少しづつ計画したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①、利用者の自己決定を尊重し、一人ひとりが自分らしく生活していただけるよう「自立支援」をしている。
- ②、アットホームな雰囲気づくり、職員や利用者が対等にかかわり、共に感情を分かち合い、利用者の立場に立って支援している。
- ③、開設してまだ1年経っておらずおらず、手探り状態で職員一同協力しながら取り組んできました。これから施設独自の特徴を確立していきたい。